

上部消化管内視鏡検査 説明・同意書

患者 ID :

【上部消化管内視鏡検査】

上部消化管とは食道・胃・十二指腸を指します。これらの場所にできる病気（炎症、ポリープ、潰瘍、癌等）を見つけ、適切な治療方法を決定するために行います。経鼻、経口による検査があります。

【方法・手順】

まず胃の中を見やすくするシロップを飲んでから、のどの麻酔をかけます（経鼻の場合は鼻の麻酔をします）。希望される方には点滴を取り、鎮静剤を投与します。鼻または口からカメラを挿入します。

【偶発症と対処法】

上部消化管内視鏡検査は一般に広く行われており、病気の診断、早期発見にとっても有効な検査です。

しかし、まれに偶発症が起こることがあります。偶発症には投与薬剤によるもの、前処置によるもの、内視鏡操作によるものがあります。

- ・投与薬剤、前処置に使用する薬剤に対するアレルギー反応、ショックが起こることがあります。
- ・内視鏡が擦れたり、組織を採取した際に出血することがあります。自然に止血することがほとんどですが、まれに出血が続いたり、検査終了後に再出血することがあり、輸血を要することもあります。
- ・胃の壁を擦り、損傷（穿孔等）することがあります。
- ・持病（脳卒中、心筋梗塞など）が悪化することがあります。

上記以外にも予期しない偶発症が起こりうる場合があります。症状によっては入院や手術が必要となる場合や命に関わる場合があります。

偶発症を防ぐために細心の注意を払い、万が一、偶発症やその他トラブルが発生した場合には、外科的処置を含めた最善の方法で対応しますが、それに対する治療費は患者様負担となりますのでご了承下さい。

日本内視鏡学会の報告では偶発症の発生率は0.005%、死亡率は0.0002%と報告されています。

【鎮静剤使用に伴う注意点】

内視鏡検査は苦痛を伴う場合があります。苦痛を軽減するために当院では希望者に対して鎮静剤を使用して検査を行います。鎮静剤を使用すると、まれに薬剤アレルギー、呼吸抑制、血圧低下などが起こることがあります。そのため、検査中は血液中の酸素濃度のモニターや血圧測定を行います。検査後に眠気や注意力低下、運動能力の低下がみられる場合があるため、検査当日は車、バイク、自転車の運転は行わないでください。またご高齢の方は付き添いの方と来院されることをお勧めいたします。また、持病等により鎮静剤が使用できない場合もあります。ご了承ください。

令和 年 月 日

説明医師

●上部消化管内視鏡検査の必要性、偶発症の可能性など上記内容について十分な説明を受け、理解しました。上部消化管内視鏡検査を受けることに同意します。

令和 年 月 日

患者氏名